

箱根駅伝予選会突破！伊勢路は総合8位！

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会 結果

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走（通称：箱根駅伝）への出場校を決める予選会が10月23日に東京都立川市陸上自衛隊立川駐屯地内コースを周回するハーフマラソン(21.0975km)の距離で行われました。本戦出場最多記録の更新を目指す中央大学は、出場した12名のうち上位10名の合計タイムが10時間37分38秒で2位となり、10校に与えられる本戦出場権を獲得しました。

順位	学校名	記録	着順	氏名(学部・学年)	記録
1	明治大学	10時間33分22秒	13	吉居 大和(法2)	62'51"
2	中央大学	10時間37分38秒	32	阿部 陽樹(文1)	63'28" 初
3	日本体育大学	10時間39分32秒	36	手島 駿(商4)	63'30"
4	山梨学院大学	10時間41分15秒	40	中澤 雄大(経済3)	63'34"
5	神奈川大学	10時間41分57秒	61	田井野 悠介(文3)	63'52" PB
6	法政大学	10時間42分12秒	74	湯浅 仁(経済2)	63'57" PB
7	中央学院大学	10時間43分08秒	76	東海林 宏一(経済1)	63'58" 初
8	駿河台大学	10時間44分47秒	78	助川 拓海(経済3)	63'59"
9	専修大学	10時間44分58秒	82	中野 翔太(法2)	64'03" 初
10	国土館大学	10時間45分41秒	107	森 凪也(経済4)	64'26"
			173	三浦 拓朗(商4)	65'22"
			283	山平 怜生(法1)	67'14" 初

※初はハーフマラソン初出走
PBはパーソナルベスト

藤原正和 駅伝監督コメント

昨年に引き続きコロナ禍での開催にあたり、自衛隊をはじめ様々な協力の中予選会を開催頂けましたこと、感謝申し上げます。

結果は総合2位で第98回箱根駅伝本戦へ駒を進めております。

昨年に続き、駐屯地内滑走路を周回するコースでした。昨年は雨で気温が低く風も横風で好条件でしたが、今回は北風が強く吹き陽射しを浴び続ける難しいコンディションとなりました。

吉居と中野は日本人先頭グループでレースを進めるプランでした。吉居は夏しっかりと走り込めていたので走れると考えており、復調傾向を結果で示してくれました。中野は初ハーフとなりましたが、攻めのレースを選んでスタートしました。13km 辺りから前とは離れてしまい、後半は苦しいレースでしたが、練習内容からいっても今回のレースではもって15km かと考えていましたのでよくやってくれました。怪者の無のように注意しつつ練習を積んで、本戦でリベンジです。

メイングループは手島をリーダーに三浦・中澤・阿部の4人で進めました。このグループはスタート後の直線での走者が転倒し、その転倒を避ける間に集団から少し置いていかれ、その影響で入りの5km 通過が遅くなりました。手島が上手く集団を牽引してくれて、しっかりと目標順位で阿部・中澤をゴールさせてくれました。1年生の阿部は力があ

るのでこのグループでいきましたが、この先も楽しみです。三浦が不調でしたが、逃げずにこのグループでいった姿にまた強くなる片鱗を見ました。彼の復活は箱根シード権への重要なピースになると思いますので、しっかりと取り組んでいきます。

セカンドグループは森がリーダーで引き、助川・田井野・湯浅・東海林・山平の6名で形成しました。森は夏前までの貧血の影響もあり、十分な走り込みが出来ていない中でしたので、今回はセカンドグループの引き役を担ってくれました。森が引いてくれた事でグループが安定し、5名の選手が力をしっかりと発揮でき、想定通りのビルドアップをきめてくれました。森の転倒等想定外の出来事もありましたが、アクシデントにも対応できる強さが備わってきたかと感じています。山平は10km ポイントで離れてしまいましたが、この12名に選ばれた事は自信にし、通用しなかった力に悔しさを持って再度つけていく、そんな2ヶ月にしてほしいと思います。

1位通過の明治大学さんとの差はエース格の結果の差なので、三浦・森・中野を箱根までにどれだけ仕上げられるかが大事になります。底上げは確実に進み、強さも生み出せつつある中、もう一度エース育成に取り組んでまいります。

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走 本戦

- 東京・読売新聞社前～箱根・芦ノ湖間を往路5区間(107.5km)、復路5区間(109.6km)の合計10区間(217.1km)で競う
- 往路：2022年1月2日(日) 復路：2022年1月3日(月) (午前8時00分スタート)



秩父宮賜杯 第53回全日本大学駅伝対校選手権大会 結果

11月7日に秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会が、熱田神宮西門前～伊勢神宮内宮前（8区間／106.8km）で開催され、中央大学は5時間17分6秒で8位となり、上位8チームに与えられるシード権を獲得しました。

藤原正和 駅伝監督コメント

まずはコロナ禍の中、大会を開催していただき誠にありがとうございます。特に愛知・三重の関係者の方々に深く御礼申し上げます。9大会ぶりの参加となりました全日本大学駅伝、目標通り8位に入り来年のシード権を獲得できました。

1区の吉居でトップに立ちレースを前を進めたいと思い、最短区間でしたが難しいコースの1区を彼に任せました。2区の阿部は各校のエース達に出来るだけついていきました。粘りきれない部分はありましたが、予選会からの流れを考えると仕方なかったかと思えます。3区の中野も入りの動きがあまり良くなかった中、何とかまとめてきました。4区の助川は後半苦しい走りとなり設定タイムより50秒ほど遅れてしまいました。

2～4区の3人はこの区間に入ってくる選手たちと本来競り合わないといけないレベルだと理解し、今後さらに成長してくれると期待します。

着順	距離	氏名(学部・学年)	記録
1区	9.5km	吉居 大和(法2)	27'05" 区間2位 *区間新
2区	11.1km	阿部 陽樹(文1)	32'43" 区間12位
3区	11.9km	中野 翔太(法2)	34'30" 区間9位
4区	11.8km	助川 拓海(経済3)	34'51" 区間13位
5区	12.4km	三浦 拓朗(商4)	36'19" 区間3位
6区	12.8km	山口 大輔(文1)	38'54" 区間11位
7区	17.6km	中澤 雄大(経済3)	53'14" 区間8位
8区	19.7km	手島 駿(商4)	59'30" 区間5位

5区の三浦にはタスキが渡る時点で遅れてくるから、ポジションをシード権内に戻すことを任せしっかりと応えてくれました。6区の手島は前を追えるタイプなので三浦とセットで考えここに配置しました。駒澤大の安原選手に引き離されてからは苦しい走りになりましたが、粘りをみせてくれました。

7区の中澤・8区の手島は1番最初に決めた区間配置でした。適正もあり、安心して任せられる2人でしたので、挽回を期待し任せ、見事に応えてくれました。

控えに回ってくれた選手も皆状態がよく、その点も好結果に繋がった要因であったと思います。

苦しい想いを沢山してきたチームですが、ようやく一つ結果に繋がり、大きな成功体験を得ることができました。この自信を過信に変えず、箱根本戦に向けて泥臭い練習を積んでいきたいと思います。



1区: 吉居 大和 (法2)

2区: 阿部 陽樹 (文1)

3区: 中野 翔太 (法2)

4区: 助川 拓海 (経済3)

5区: 三浦 拓朗 (商4)

6区: 山口 大輔 (文1)

7区: 中澤 雄大 (経済3)

8区: 手島 駿 (商4)